セカイのことをかんがえる KOMABA DAY

第 48 号　2023/10/31

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

中学生、紛争で故郷に帰れず

“ガザ地区出身の中学生、家族の安否案じながらヨルダン滞在

パレスチナ・ガザ地区で暮らしていた中学生 3 人が、来日中に紛争が勃発し、家族が待つ故郷に帰れない日々が続いています。現在は国連機関が保護し、ヨルダンに滞在しています。

ガザ地区出身の中学生 3 人は、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の招待で今月、日本を訪れ、5 日に広島の原爆資料館と平和記念公園を見学して慰霊碑に献花し、6 日には地元の高校生らと交流しました。幼少期から紛争を経験している 3 人は、現在の広島の街を見て、ガザ地区の復興への希望や平和への思いを新たにしたそうです。

ところが、ガザ地区に戻るため新幹線で東京に移動中にハマスとイスラエルの紛争が勃発したことを知りました。家族らが待つ故郷に帰れなくなり、現在はヨルダンのアンマンに滞在し、UNRWA が運営する学校に毎日通っています。

ガザ地区に残る家族は、避難して今のところ無事だということですが、友人を亡くした生徒もいるということです。

3 人を保護している UNRWA 保健局長の清田明宏さんは、「3 人とも初めて飛行機に乗って、初めて日本に行って、色んな人に会って希望をもらったが、ガザ地区に帰れず、故郷が今後どうなるかも分からない。今は時折、笑顔も見せているが、その気持ちはとても複雑だと思う。停戦して支援物資や燃料をガザ地区に入れて、人々の苦悩を少しでも和らげてほしい」と話しています。

[2023/10/29 07:25]テレ朝ニュース

広島の平和公園へ訪れたガザ地区の中学生

被害をうけた市街地

いまも続く空爆

大規模な空爆、がれきに埋もれた街、続々と集まる戦車、増え続ける負傷者の数。ニュースではこのような現地の痛ましい様子が連日伝えられており、KOMABA の生徒達も強い関心を持ってくれているように感じます。

どちらが正しくどちらが間違っているかという視点で紛争は考えられません。ただこの文章を読んでいる今この瞬間でさえ「あたりまえ」の生活を失っている人がその場にいるという事実は変わりません。

紛争は悲惨なもので中には目をそむけたくなる場面も多々あります。しかしながら、そこにある現実に自ら踏み込んで考えられるようになると、また大事な気づきが得られます。ぜひ多くの子供達に知ってほしい話題だと心から思いました。

(北山)